



全学年で「カントリー・ロード」などを合唱

学習成果存分に披露

田辺市本宮町の市立本富中学校（生徒40人）で10日、統合後8回目の文化祭が開かれた。今年のテーマは「First of 令和～俺たちの時代の始まりだ～」。開会式では野村裕之校長と、実行委員長で3年の塚晴奈さんがあいさつした。

総合的な学習の発表は1年生が地域学習で熊野本宮大社と熊野本宮温泉郷について、その歴史や来訪者の動向など、聞き取り調査をもとに発表。生徒は「川湯十二薬師祭」恒例の、揚げ物作りに取

り組んでいることも語った。2年生は職場体験で田辺消防署本宮分署、本宮郵便局、熊野本宮観光協会、保育園、飲食店で学んだ内容を発表。3年生は沖縄への修学旅行の思い出と、平和学習で戦争の悲しさや命の大切さを学んだことを語った。

有志の発表では3年生の歌とダンス、2年生のダンスが元気に披露された。2年生の日常を紹介する動画上映もあり、会場から笑いがまき起きた。

1年生はハンドベルで「キセキ」などの曲を演奏。また、全学年で「零」（ピアノ・川越友輔くん）、「ラム・庄」（和宏教諭）、

新宮市と広島県三原市の「姉妹都市提携盟約調印式」が10日、新宮市役所であった。田岡市長前田賢一議長、濱口太史県議会議員、三原市の天満祥典市長、仁ノ岡範之議長ら両市関係者20人が出席し、提携締結を祝うとともに期待を寄せた。

三原市と新宮市のつながりは、400年前の元和5年（1619年）、新宮城主であつた浅野忠吉が、主君・浅野長晟（なあきら）の広島藩転封（てんぽう）に随行したところにさかのぼる。

忠吉が、三原に向かう際に水先案内人は、

姉妹都市提携を締結



市旗を交換し絆を深めた

として、三輪崎の熊野水軍水主（かこ）衆が多く同行し、その一部の人々がそのまま三原城下にとどまつたことから、三原と新宮の間に「縁」（えにし）が誕生。その後、先人たちの縁密な交流を受け継ぎ、昭和・平成の時代においても、文化調査、三輪崎区と旭町の地域間交流、祭事／文化交流、行政／議会間の交流などが、幾たびも繰り返され、直近では、平成30年の西日本豪雨の際、三原市と新宮市は、相互交流をより育みたいという認識で一致し、今回の姉妹都市提携締結に至った。

盟約書の内容は、両市には400年にわたる関係性があり、その共有する歴史と文化は先人たちにより長く受け継がれてきた。教育・文化・産業、地域防災など各分野での交流を通じ、より一層の信頼と友情を醸成し、互いの繁栄と発展に資することを目的に提携するというもの。

田岡、天満両市長が盟約書に署名、調印し、市旗が交換された。その後、市役所駐車場で、両市の市花であるサツキの植樹式が行われた。

田岡市長は「教育・文

化・産業などの交流に加え、特に防災面においては「平成23年の紀伊半島大水害」「平成30年の西日本豪雨災害」で、大きな被災経験を持つ両市であることから、そのノウハウを共有し、しっかりと防災連携、発災時の支援協力につなげていきます」。

天満市長は「近年多発しております自然災害への対策をはじめとして、あらゆる面で連携を図るとともに、より一層の交流を深め、お互いに

離れていても心は近くに寄り添い、支え合い、そしてともに発展するよう

な関係を築いて参りたいと考えております」とそれをコメントを出した。

新宮市は昭和49年にアメリカ・カリフォルニア州サンタクラーラズ市、平成20年に宮城県名取市と結んでおり、今回の三原市との姉妹都市提携は名取市に続き、国内で2件目となる。

（茂村振五）

（大竹雅子）



サツキの植樹が行われた

教育・文化・産業で連携

新宮市と広島県三原市

紀 南 抄

令和元年11月12日

高齢者のス

ポリックの国

わかやま201

山大会「ねり

典、第32回全国

健康福祉祭和歌

山大会「ねり

典、第32回全国

高齢者のス

ポリックの国

わかやま201

山大会「ねり

典、第32回全国

健康福祉祭和歌

山大会「ねり

典、第32回全国

高齢者のス

ポリックの国

わかやま201

山大会「ねり

典、第32回全国

高齢者のス

ポリックの国

わかや